

TOPICS

奈良県が「21世紀の観光戦略」を発表 ～泊まる、「奈良」。じっくり楽しむ～

明日香・藤原京から奈良・平城京に都が移ったのは、西暦710年。奈良は5年後の2010年に平城遷都1300年を迎える。このほど、奈良県では、平城遷都1300年にあたる2010年に向け、「21世紀の観光戦略」を策定した。観光を基軸とした地域活性化はこれからの奈良の大きなテーマ。同戦略では「宿泊観光の推進」「外国人観光客の誘致」「新しい魅力の創出」を三つの柱として、戦略目標および具体的な目標値を設定した。

1. 「21世紀の観光戦略」の概要

(1) 戦略策定の目的

奈良県では、平成13年頃から人口が減少傾向にあるが、今後、奈良県のポテンシャルを考えた場合、観光振興を発展・継続させていくことこそが県土発展の必須条件となるとして、今回の観光戦略（以下、単に「戦略」という）の策定を行った。平城遷都1300年にあたる2010年までの5年を千載一遇のチャンスととらえ、県民一丸となって観光振興を推進していく必要があるとしている。

(2) 戦略目標及び目標値

戦略目標は、「泊まる、『奈良』。じっくり楽し

む」とし、「宿泊する奈良」「じっくり楽しむ奈良」を前面に打ち出した。一方、サブテーマは「～日本文化の源流・『本物』を五感で堪能する～」とした。

また、この戦略目標が単にスローガンに終わることのないよう、「戦略」には2010年に達成すべき目標値として3つの具体的な数値が盛り込まれている。

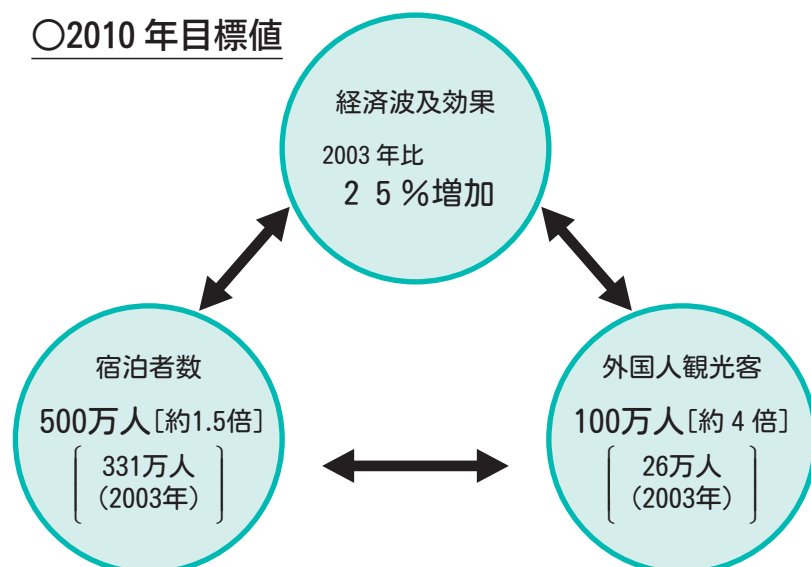
第1は宿泊者数で、2003年実績の約1.5倍にあたる500万人。第2は外国人観光客で、2003年実績の約4倍の100万人。第3は観光客が奈良にもたらす経済波及効果で、2003年比25%増とした。

●戦略目標

泊まる、「奈良」。じっくり楽しむ

～ 日本文化の源流・「本物」を五感で堪能する ～

○2010年目標値



(3)「21世紀の観光戦略」の基本的な考え方

「戦略」では、平城遷都1300年記念事業に向けて集中的な取り組みを行うため、目標達成のための取り組みを、以下の「3つの戦略」と「9つの戦術」として整理した。

① 3つの戦略

i) 宿泊観光の推進 ～量の確保と多様化対応～

歴史性・文化性に富み、自然のなかに素朴に存在する奈良の観光資源は「ゆっくりと」「じっくりと」楽しんでもらうことで、より深く理解することにつながる。そこで、観光客の満足度を向上させ、地域経済にも大きなインパクトを与える「滞在型・宿泊型観光」を推進し、その受け皿となる宿泊施設の充実を中心に取り組みを進める。

ii) 外国人観光客の誘致 ～東アジアに注目～

奈良には、3つの世界遺産や飛鳥など、日本文化の源流を体感できる観光資源があり、歴史と自然がこん然と溶け合った、世界に誇れる空間を創出している。国が進めている外国人観光客誘致施策と連動し、「世界に光る奈良」をアピールする取り組みを進める。特に、本県とゆかりの深い東アジア市場との重点的な取り組みを進めていく。

iii) 新しい魅力の創出 ～本物を五感で体感～

奈良県には豊富な歴史文化資産があるが、単に、これらの観光資源を「見る」という視覚だけの魅力に頼らず、視覚以外の人間の感覚にも訴える魅力を創出することで、「五感で奈良を楽しむ」をめざす。

② 9つの戦術

以上の3つの戦略の実効性を高めるため、9つの戦術と実行されるべき主な取り組み例（下図参照）を示した。

奈良県が、今後、観光地として生き残るために実行すべき取り組み例を各戦術ごとにさらに2つないし3つの項目に分けて具体的に例示している。

2. 「戦略」の役割について

今回の「戦略」は、観光に携わるすべての関係者の指針であるだけでなく、県民一人ひとりに対しても、もてなしの心や地域おこしへの参加など、自らが主役だという認識のもと行動するという主体的な姿勢を求めている。行政、観光関連事業者だけに限らず、広く県民・NPO・ボランティアなど、さまざまな主体が一丸となって戦略的に観光振興を推進していくことの必要性を同「戦略」は強調している。

< 9つの戦術 >

○戦術と実行されるべき主な取組例

1 宿泊施設の創出・再生

- ・県内施設の現況と課題の把握
- ・多様な宿泊施設の創造（宿坊、町家民宿・農家民宿等）
- ・滞在を促進する魅力づくり

4 広域観光の推進

- ・大阪府等近府県との連携
- ・共通バス（観光施設、交通機関）の発行

7 「もてなしの心」推進

- ・観光ガイドのネットワーク化（ボランティア・語り部）
- ・「(仮称)奈良検定」の実施

2 世界への魅力の発信

- ・現地セミナー、国際観光展出展
- ・旅行商品の開発（国別、ターゲット別）
- ・外国人受け入れ施設（宿泊施設、飲食店等）の拡充

5 食・買い物の充実

- ・地元素材の開発とPR
- ・奈良みやげもの大賞の創設
- ・拠点の整備（道の駅等）とにぎわいの空間づくり（商店街等）

8 良好な景観形成

- ・景観法を活用した市町村の主体的な取組への支援

3 参加型観光の推進

- ・世界遺産を活用したイベントの開催（平城遷都1300年、魅惑体験フェスタ、大和路歴史首都ルネッサンス）
- ・「健康」「学習」「癒し」をテーマにした新しいプログラムの創出（レベルにあったウォーキングルート、考古学、自然、環境）

6 効果的な情報発信

- ・情報発信拠点の拡大（代官山iスタジオ、鉄道駅、空港、コンビニ等）
- ・携帯電話によるリアルタイム情報の提供、散策ナビゲーションの構築

9 地域おこしを支える人づくり

- ・地域づくりサポート（農業体験、自然体験、町家体験）
- ・人材養成塾（新世紀まほろば塾、奈良2010年塾）